



## 第102回 | 私のスケッチブック

### 「木洩れ日と伊万里焼風の花瓶」

リエージュ／ワロン地方（ベルギー）



最初にリエージュを訪れたのは、物流コンサルタントを始めた頃で、日本から欧州に輸出された製品を梱包していた包装材料を現地ですべてどのように始末するか？当然ながら関税がかかかっていないので意外と面倒です。現地で再利用すれば付加価値を生む可能性もあり、対応可能な仕組みを慎重に検討していました。そこで、リエージュはオランダとドイツに接した交通の要衝であり、紹介された物流業者に指導を仰ぐ目的で訪れた記憶です。今では、世界的にも極めて美しいと評判の高いギマン駅も当時は全面改築中であつた為、近郊のローカル駅で下車。この地域はフランス語圏ですから言葉で苦労の連続でした。

さて伊万里風の花瓶の話です。この作品を描いたのはリエージュ郊外のレストランの窓辺の情景です。美しい花々に気を取られるのではなく、何となく伊万里焼風の花瓶が気になって…急いで手帳にスケッチして、

帰国してから描きました。

リエージュの街中では魅力的な狭い路地や中世の佇まいに趣があり、綺麗な街角や建物は少ないのですが、観光開発されていない素朴な中世ヨーロッパを味わせてくれます。毎週日曜日の朝から昼過ぎまでムーズ河岸のラ・パットの市場は有名で、延々と続く日用品や食品の出店の多さに驚かされます。

食べ物は、何と云ってもリエージュ風ワッフル。並び称されるブリュッセル焼とは異なり、少し固めでほんのりした甘さが特徴で、小腹が空いた時にシナモン風味がお奨め。

私のコンサルタントとして最後の仕事場もリエージュでした。この町の物流業者は西欧の中でもTop-Classの配送品質を有し、ベルギーと云う資源も無い小国がロッテルダムとアントワープと云う強力な港を武器に物流で生き残りを賭けたと申せます。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。

「第70回 全国カレンダー展」に11度目の入選を果たし、その実力を発揮する。

<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索